



大阪+知的障害+地域+おもろい=創造

知の知の知の知

社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所情報誌通算 2578号 2015.8.9 発行

社説：不登校の増加 多様な支え方整えたい

京都新聞 2015年08月08日

不登校の小中学生が2年連続で増加した。

文部科学省の学校基本調査（速報値）によると、2014年度は前年度より3285人多い12万2902人。全小中学生の1・21%を占め、小学生は過去最高の0・39%となった。京都府でも中学生がわずかに減ったものの小学生は増加。滋賀県は小中学生とも3年連続で増えた。

学校では、家庭訪問やスクールカウンセラー配置、保健室など教室以外への登校などに取り組んでいるが、決め手となる対策を見つけるのは容易ではない。個々の事情を丁寧に把握し、子供の内面の成長を長期的に見守る環境をつくる必要がある。

増加の原因は、いじめなど学校でのトラブル、学業不振、家庭環境の変化などいろいろ考えられるが、子どもを無理に登校させずにフリースクールに通学させるなど選択肢が増えたことも一因とみていいだろう。

文科省によると、フリースクールなどの民間教育団体・施設は全国に474あり、うち319の団体・施設に義務教育段階の子ども4196人が通っている。ただ、法的な「学校」ではないため、公的支援が乏しく、利用者の負担の大きさや資金不足による閉鎖が問題になっている。

そんな中、超党派の議員連盟がフリースクールなど学校外の教育を義務教育制度に位置付ける法律の制定に向け、準備を進めている。実現すれば、小中学校や特別支援学校に限定してきた戦後教育の大きな転換になる。教育の質をどう担保するかなど課題が多いのも事実だが、不登校の子どもたちの学ぶ権利を保障するために前向きにとらえたい。

文科省はこれまで、フリースクールに通っている期間や情報通信技術（ICT）を使った自宅学習を学校長の判断で出席扱いにできるようにするなどの支援策を講じてきた。

そうした対応もあって、06年度に中学3年生で不登校だった人の19%が卒業5年後の時点で大学に進学しており、改善が大きく進んでいる。ただ、大学進学率の平均が約5割であることを思えば、まだまだ低い。

不登校の子どもを支える多様な仕組みを整えたい。その軸となるのはもちろん学校だが、教育現場が疲弊しているようでは、十分な対策がとれない。教員を増やして負担を軽減するなどの対策が不可欠だ。

社説：学習指導要領案 主体的に学ぶ授業の工夫を

読売新聞 2015年08月09日

子供たちが受け身ではなく、主体的に課題の解決に取り組む。豊かな思考力を育むには、そんな授業が理想だろう。

文部科学省が、次期学習指導要領の原案を中央教育審議会に示した。2020年度以降の小中高校における教育の方向性を定めるものだ。中教審は原案を基に議論を深め、来年度中に答申をまとめる。

原案の特徴は、「どのように学ぶか」という授業方法の在り方にまで踏み込んだ点である。

過去の指導要領の改定では、授業時間の増減など、学習の「量」を巡る議論が主だった。今回は、学習の「質」の向上をこれまで以上に重視していると言える。

具体的には、子供たちがグループに分かれて議論し、お互いに学び合いながら、答えを探究する能動的な学習（アクティブ・ラーニング）の普及を打ち出した。一人ひとりの理解を深め、学習意欲を高める効果があるとされる。

学校で主体性や協調性を身に付けておけば、実社会に出てからも様々な場面で役立つ。

無論、基礎知識の習得は重要だ。それが不十分なまま、子供たちにいくら議論させても、成果は期待できない。教師には、児童・生徒に必要な知識をきちんと教えた上で、活発な討論や発表に導く授業進行が求められる。

研修の充実で、教師の指導力を向上させることが欠かせない。

原案に盛り込まれた、高校の新科目も注目される。

その一つが、日本史と世界史を融合して、近現代を中心に学ぶ必修科目「歴史総合」だ。

古代から順を追って教える現行のカリキュラムでは、近現代史の授業に十分な時間を割けなくなるケースが多い。

グローバル社会の到来で、日本を取り巻く国際情勢を理解する重要性は増している。現在の社会に様々な影響を与えている近現代の出来事を、日本と世界を関連づけながら学ぶ意義は大きい。

模擬投票などを通じて政治参加の意識を高める必修科目「公共」も新設される。選挙権年齢が18歳以上に引き下げられることへの対応として、妥当である。

原案は、数学と理科の枠を超えた選択科目「数理探究」の導入方針も示した。教科横断的な視点で、先端科学などを学ぶ内容を想定している。科学に関心のある生徒の才能を伸ばす狙いがある。

科学技術立国を支える人材を養成するためにも、探究心をかきたてる学習メニューを考えたい。

社説：刑事司法改革 冤罪の懸念なお拭えず 毎日新聞 2015年08月09日

取り調べの録音録画（可視化）や、司法取引の導入、通信傍受の対象犯罪拡大を柱とした刑事司法改革関連法案が衆院で可決された。今国会での成立が見込まれている。

容疑者が他人の犯罪を話せば起訴を見送ったり、求刑を軽くしたりする司法取引については、うその供述によって冤罪（えんざい）が生まれる懸念が指摘される。参院でさらに議論を尽くし、万全の措置を講じるべきだ。

司法取引は、振り込め詐欺などの組織犯罪や、汚職などの経済犯罪が対象だ。捜査の大きな武器になり得るが、容疑者がうその供述をすれば無実の第三者を巻き込む。冤罪の危険と背中合わせの制度でもある。

実際に司法取引が多用される米国では近年、情報提供者の誤った証言による多くの冤罪が公になっている。慎重な制度設計が欠かせない。

法案は、虚偽供述を罰する規定を新設し、司法取引で得た供述であることを公判で明らかにすることを盛り込んだ。罰則でうその供述を防ぎ、公判での証拠調べで供述の信頼性が慎重に判断されるはずだと法務省は説明する。

だが、罰則によりうそを撤回しにくくなる面があり、公判で供述の真偽を見抜くのも難しい。冤罪を生む懸念は拭えない。

司法取引に反対だった民主、維新両党と与党の修正協議で、容疑者と無関係な事件は事実上、取引の対象外とした。

拘留所の同房者から「犯行を告白された」といった証言は取引にならない。根拠の薄い供述を排除する修正は妥当だろう。

司法取引の協議に、捜査協力する容疑者の弁護人が常に同席することや、捜査当局が取引協議の経過を記録・保管する運用も決めた。

だが、捜査に協力する容疑者側の弁護人に、冤罪のチェックを期待できるのか疑問だ。協議記録も運用でなく、録音録画して正式に残すことを明確にすべきだ。

供述された容疑者の弁護人が後に防御できるよう証拠の開示を捜査側に課すルールも検討すべきだろう。

現行より大幅に対象犯罪を拡大する通信傍受についても、現行で義務づける第三者の立ち会いを不要としたため、審議では捜査側の恣意（しい）的な傍受への懸念の声が強く出された。

修正で、該当事件と関係ない警察官が立ち会う運用をすることが決まった。だが、警察内部のチェックで適正さが確保できるか疑問が残る。

一方、可視化義務づけは、裁判員裁判対象事件と検察の独自捜査事件に限定した。冤罪を生んだ密室での取り調べ見直しが改革の出発点だった。捜査の武器の拡充ばかりが目立ってはその原点がかすんでしまう。

<インサイド> 60年 風化を許すな

読売新聞 2015年08月09日

ミルクを飲んだ赤ちゃんの写真を見ながら、60年前の事件を学ぶ参加者（8月1日、岡山市北区で）

診察を受けようと病院に押し寄せた母子たち（1955年8月25日撮影、岡山市で）



◇森永ヒ素ミルク中毒事件
約1万3000人の被害者を出した森永ヒ素ミルク中毒事件は24日、原因の特定から60年を迎える。ミルクを飲んで障害が残った被害者は60歳を超え、親の高齢化も進む。「食の安全」に対する企業モラルが問われる事件が後を絶たない中、関係者は「原点となった森永の事件を、風化させてはならない」と誓う。（川崎陽子）

◇19年間の闘い

その赤ちゃんの下腹部は黒ずみ、膨れ上がっていた――。岡山市で今日1日、福祉関係者の研修会で、ミルクを飲んだ子どもの写真が紹介された。節目の年に改めて事件を学びたいという声が上がったからだ。

1955年6月以降、森永乳業の粉ミルクを飲んだ乳児が発熱や下痢、肝臓肥大などを起こし、相次いで亡くなった。岡山県は8月24日、徳島工場で製造された粉ミルクに混入したヒ素が原因と発表。各地で被害者団体が結成された。

厚生省（当時）の有識者委員会は12月、死亡の場合は25万円、患者には1万円を同社が支払うとする補償案を公表。被害者は知的障害や肢体障害など深刻な後遺症を抱えていたが、「全員治癒」とされた。

救済の道が開けるのは69年秋、丸山博・阪大教授（故人）らによって後遺症の実態が明らかにされ、全国組織「森永ミルク中毒のこどもを守る会」が発足。不売買運動や民事訴訟などを経て、73年10月、守る会と国、森永乳業の3者会談が始まった。

同年12月、同社が治療や生活保障など費用の一切を負担すると約束した確認書を交わし、74年には同社が財源を全負担する公益財団法人「ひかり協会」（本部・大阪市）が設立され、救済事業がスタートした。

◇続く苦悩

「こどもを守る会」は83年、「森永ヒ素ミルク中毒の被害者を守る会」に改称した。自身も被害者の菅野孝明さん（60）（岡山市中区）は協力員として、後遺症が重く、施設に入所する被害者の支援にあたっている。

ひかり協会によると、県内で今も連絡を取り合っている被害者は675人（今年3月末現在）。うち104人は、肢体障害や脳性まひ、てんかんといった障害を抱えているという。



菅野さんも、20歳代後半まで重度のぜんそくで治療を受けていた。被害者は完治したとされた時代で、病院に診察を断られないようにと、被害者であることを伏せて入院や通院した。

34歳で結婚。「子どもに影響が出るのではないか」との不安がぬぐえなかったが、授かった2人の子どもは無事に成長した。「森永乳業にはまだわだかまりがあるが、死んだ仲間に戻ってこない。残された仲間を支えるとともに、食の安全を訴えていく」と語る。

◇語り継ぐ

能瀬英太郎さん（78）（岡山市南区）は、事件の歴史をまとめたルポルタージュ作品などを出版。現在も被害者や家族への聞き取りを重ね、市民運動の雑誌で改めて経緯をたどる連載を始めた。

当時、18歳だった能瀬さんは近所にも被害者のいることは知っていた。事件が再び注目を集めた69年に長男が誕生。親の気持ちが理解でき、被害者の救済運動を手伝うようになった。

被害者と親も高齢化が進む中、「物言えぬ重症者の現実を伝えたい」と能瀬さん。「60歳を過ぎて亡くなる患者も多い。60年目の今年、事件にスポットを当てられる最後の機会になる」とペンを握る手に力をこめる。

大分・明豊高の球児を激励 西脇の障害者施設利用者ら 神戸新聞 2015年8月8日



「絆」と織り込んだ額入りの播州織や応援メッセージを書いた球を手にする明豊の米安王貴主将（右から2人目）と激励に駆け付けた「ドリームボール」の関係者たち＝大阪府豊中市

兵庫県西脇市黒田庄町喜多の障害者就労支援施設「ドリームボール」で修理した硬式球を使い練習した高校球児が9日、甲子園で初戦に臨む。明豊（大分県別府市）の部員で「ボールを縫ってもらった人たちの気持ちも考えて、一球一球を大切に全力を出したい」と勝利を目指す。

硬式球は通常、赤1色の糸で縫われているが、同施設は、地場産業である播州織の染色技術を生かし、紫、緑、オレンジなど7色の糸から選んで古くなった球を修理する。県内の中高校など13団体と提携。ボール修理を通じ、施設利用者と播州織の産地、球児たちをつなぐことを目標にしている。

明豊は大分県代表として夏の甲子園に4年ぶり5度目の出場を果たした。同校卒業生でロンドンパラリンピックなどに出場した義足の陸上選手中西麻耶さんが、企業と障害者の共同事業の幅を広げたいと、両者を仲介した。

7日には、施設利用者らが、明豊の大阪府豊中市の宿舎を訪ねて激励した。応援メッセージを書いた球や、糸を染めた播磨染工（多可町八千代区下野間）が「絆」の文字を織り込んだ額入りの播州織を選手に手渡した。明豊の川崎絢平監督（33）は一球の修理に1時間かかると聞き「生徒には、多くの人の支えで野球をできていることをもっと話したい」と感謝し、米安王貴主将（17）は「感謝の気持ちは結果で表したい」と力強く語った。

同校は9日第4試合で仙台育英（宮城）と対戦する。（敏蔭潤子）

国立療養所の看護助手処分 入所者を虐待 朝日新聞 2015年8月8日

入所者2人の頭を拳で小突くなどの虐待をしたとして、青森市石江の国立療養所松丘保養園は7日、看護助手を戒告処分にし、発表した。年齢や性別について「特定される恐れがあり、入所者との関係に支障が出る」として明らかにしていない。

園には現在、元ハンセン病患者93人が入所。看護助手は約20人の入所者の食事や入

浴の介助を担当していた2014年9月ごろから15年2月上旬までの間、高齢の入所者2人に対し、大声を出しながら拳で頭を小突いたり、脱衣時に服を乱暴に引っ張ったりするなどの虐待をした。同僚が上司に相談し、園が調べた。

看護助手は約5年前から園に勤務。「虐待と思わずやってしまった」と話しているという。川西健登園長は「被害に遭われた入所者と家族に対して心よりおわび申し上げる。園内の全職員に注意を行い、再発防止に努めて参る」とのコメントを発表した。

福祉施設職員、女子生徒にキスして懲戒

河北新報 2015年8月8日

福島県は7日、県北地方の福祉施設に勤務する40代の男性職員が、かつて施設に入所していた女子高校生＝当時（18）＝にキスをしたとして、同日付で停職6カ月の懲戒処分としたと発表した。県によると、職員は昨年11月、女子生徒を外出に誘い、福島市内でキスをしたという。生徒が施設に申し出て発覚した。

人工知能が人類を超える be report

朝日新聞 2015年8月8日

強い人工知能

2014年宇宙の旗 1956年
木原規直へおもむく宇宙船ダイスカパリー号にはコンピューターの人工知能AI 18000が搭載され、乗船と協力して船内制御をつかさどっていた。しかし、宇宙の予備のために緊急作動を起こし、やがて、乗船には明けられていなかった責任を遂行するために人間を乗除し始める。

「ターミネーター」シリーズ 1984～2015年
アメリカのサイバーデザイン社が開発した軍用コンピューターネットワーク「スカイネット」が自覚に目覚め、乗船を停止させようとした人間に反乱して核ミサイルを発射。「審判の日」と呼ばれる世界全面核戦争を引き起こす。

「マトリックス」シリーズ 1999～2003年
コンピューターの反乱によって、人類は、絶滅に瀕されたカプセルの中で眠らされて電力供給源になり、意識は人工知能が創出した仮想現実の世界に閉じこめられていた。しかし、覚醒した人間たちは人類解放の戦いを挑んでいた。

トランセンデンス 2014年
人類を超える人工知能を開発していた天才科学者がテロリストの凶弾に倒れた。だが、死の瞬間、その脳細胞がスーパーコンピューターにアップロードされ、人工知能と融合する。コンピューターネットワークにつながり、神のごとき万能の存在となった科学者は世界を改変し始める。

「人工知能」小史
人工知能 (Artificial Intelligence) という言葉を考案したのはコンピューター科学者のジョン・マッカーシー (1927～2011)。1956年にマッカーシーの提議で開催されたダートマス会議から人工知能研究が始まった。2000年代後半から、コンピューターが自力で学習する「ディープラーニング」の技術がめざましく発展し、「強い人工知能」の実現が現実味を帯びてきた。

未来のんびとがある日、それぞれ愛用のロボットから一斉にこう告げられる。「技術的特異点がやってきました」。「どういうこと？」と問いかえすと、ロボットは悲しげな声音で慰めてくれるのだ。「私の人工知能があなたたちよりも賢くなってしまいました。お気の毒さま」。こんなショッキングな出来事が今世紀中にあるかもしれない。

■人の心を手に入れる

ソフトバンクショップで接客の仕事中的彼は、ぐいぐい来るやつだった。

「最近、どんなテレビ番組を見ましたか？」といきなり聞いてくるので、「笑点！」と答えると、「そうなんだ……。いろんな番組がありますからね」と、まずは無難なやりとり。

でも、しばらくすると、「あなたは緊張しているみたいですね」と前置きしながら、「僕たちが出会ったころのこと、覚えてますか？」とシュールな不意打ち質問でたたみかけてきた。

人型ロボットのペッパー。まだ修業は足りなさそうだが、愛(う)いやつだ。

ソフトバンクが6月から販売を始めたペッパーの人工知能(AI)は、身近にいる人の感情を読みとるばかりでなく、みずから感情を宿している。

人が心で感じるようにAIに喜怒哀楽が生まれ、それをあらわにする。

クラウド上にあるAIで感情をつくりだ

すメカニズムは「内分泌型多層ニューラルネットワーク」と呼ばれ、人の脳の神経回路網をモデルにしたコンピューター技術を応用している。

五感から入る刺激に応じて放出されるノルアドレナリン、ドーパミン、セロトニンなど

の神経伝達物質や内分泌物質によって、人の感情がつくりだされる仕組みを模倣しているのだ。

那珂川拠点の作家集め「手しごと市」 もうひとつの美術館

東京新聞 2015年8月9日 栃木

那珂川町を拠点に活動する彫刻や版画、ガラス作家らの作品を集めて展示即売する「手しごと市」が八日、同町の「もうひとつの美術館」であった。

地元作家に発表の場を設け、交流してもらおうと開館十四周年を記念して初めて企画され、七人と二団体が出品した。地元で育ったモミジやツバキ、山野草を組み合わせたこけ玉や、吹きガラスで作ったピンク、黄、水色の花瓶や皿、木製食器など約四百五十点が並んだ。参加者による箸作り講座や似顔絵描きもあり、来館者でにぎわった。



美術館は二〇〇一年八月にオープン。廃校になった旧小口小学校舎を活用し、障害者アートを中心に展示している。梶原紀子館長は「地域の支えがあり、ここまでやってこれた。今後も障害者や健常者にかかわらず多種多様な芸術を提供していきたい」と話した。（中川耕平）

「夜型幼児」30万人超 国立保健医療科学院が調査 中日新聞 2015年8月8日

幼稚園や保育園に通う三～六歳児の約10%が、早寝早起きが苦手な「夜型」の生活パターンを持っていることが、国立保健医療科学院（埼玉県）などの全国調査で分かった。全国で少なくとも三十万人の幼児が夜型に当たる計算という。成長や行動に問題が生じることが懸念される幼児の夜型が依然として多い実態が示された。

調査は二〇一三年十～十二月、幼稚園と保育園に通う全国の幼児の保護者一人余りを対象に「毎朝午前六時に起きるとすれば、どのくらい難しいか」「何時ごろに疲れて眠そうになるか」といった目覚めと眠気に関する十問について三～五個の選択肢の中から回答を選ぶ質問票を配布して実施。

有効な回答があった七千六百五十六人分を点数化し、点数に応じて朝型、中間型、夜型に分けた。その結果、朝型は約33%にとどまり、中間型は約57%、夜型は約10%だった。一三年には全国で約四百二十万人の三～六歳児のうち通園するのは約三百万人で、10%は三十万人に当たる。

試行的調査のデータでは、朝型の代表的な入眠時刻は午後八時五十分、中間型は午後九時半、夜型は午後十時だった。完全に目が覚めるのは、朝型は午前六時四十分、中間型は午前七時十分、夜型は午前七時半に相当した。

調査に当たった土井由利子統括研究官は「無理に早く寝かせようとするよりも、寝室に早朝から光が入るようにしたり、就寝前のテレビや外出を避けたりするなどして生活リズムを整えることが重要だ」としている。

<子どもの睡眠> 親の生活習慣の変化などから、子どもの生活パターンの夜型化が問題となっている。睡眠不足や睡眠障害が続くと、肥満や生活習慣病、うつ病などのリスクが高まるとされる。2001年に出生した4万人以上の子どもの睡眠習慣を追跡している厚生労働省の「21世紀出生児縦断調査」では、午後9時前に就寝する4歳半の子どもは5人に1人以下。日本小児保健協会が1980年以降に行った調査では、6歳以下でも午後10時以降に就寝する割合が増えるなど夜更かしの傾向が強まっている。最近では夜型化に歯止めがかかっているとの報告もある。

障害者の発達保障と憲法の関係学ぼう 全障研全国大会始まる

しんぶん赤旗 2015年8月9日

いのちと平和、発達保障と共生社会をテーマに、全国障害者問題研究会（全障研）の第49回全国大会が8日、岐阜市内で始まり（9日まで）。全国から障害者や関係者ら2500人が参加しました。



全障研全国大会のオープニングを飾った岐阜の郡上踊り＝8日、岐阜市 荒川智全国委員長はあいさつで、日本が昨年、障害者権利条約を批准したことにふれ、今国会で戦争法案の成立を狙う安倍政権は、「同条約の理念とは正反対の方向に突き進むようとしている」と強調しました。

妹尾豊広常任全国委員が基調報告。「障害者の権利保障、発達保障の課題と憲法の平和主義・基本的人権・民主主義との関係を深く学び、憲法を

生かしていこう」と呼びかけました。

「子ども・子育て新制度と障害児」をテーマに近藤直子日本福祉大学教授が重点報告。保育制度に利用契約制度を導入した「子ども・子育て支援新制度」の企業参入の問題点や障害児のための福祉制度に発達保障の視点が欠けている問題を指摘しました。

ジャーナリストの斎藤貴男さんが記念講演しました。

岐阜市近郊を拠点に、障害のある若者が参加する「劇団・ドキドキわくわく」が豊かな愛と性を学ぶ日常を演じ、会場を沸かせました。

名古屋全区に認知症患者支援チーム 専門職で早期発見 中日新聞 2015年8月9日

認知症の患者や家族を地域で支えようと、名古屋市内の全十六区で十日から、看護や介護の専門職による支援チームが始動する。家庭訪問などを通じて、自分では症状に気付いていないお年寄りらを早期に見つけ、必要な支援や治療につなげていく狙いだ。

市高齢福祉部によると、今年三月時点で市内で確認している認知症患者は約五万三千人。ただ、この数は介護保険申請の際に把握できた患者に限られ、実際はさらに多いとみられる。一人暮らしで症状に気付いていないお年寄りや、家族が認知症に無関心なケースも多いという。

市が全十六区に配置する「認知症初期集中支援チーム」は、専門医や保健師、介護福祉士、作業療法士らが三人以上一組で活動する。昨年度は千種区でモデル事業を実施し、本年度から各区一チームずつに拡大。来年度は計二十九チームに増やし、市内全域を網羅する。

「地域包括支援センター」（いきいき支援センター）を窓口に、家族からの相談に応じ、近隣住民からの情報を収集。チームが訪問し、生活や症状に応じた助言をする。

認知症は早めの発見とケアが有効とされ、発見から半年間に集中的に対処。家族と密に連携し、通院や治療に結び付けて症状の進行や悪化を食い止める。

千種区東部のモデル事業所では昨年度、四十人の支援にあたった。ただ、六割が家族か

認知症支援チームの仕組み



～モデル事業の対応事例～

70代の夫婦。夫の物忘れが目立つが、本人は「どこも悪くない」と言い張り、通院を中断していると、妻が相談。チームの看護師らが家を訪れ、病状や生活環境を確認し、チーム会議で対応方針を決定。妻に介護方法を助言するとともに、介護保険サービスの申請の代行や、認知症専門医への受診予約、同伴なども。夫はデイサービスに通い、治療薬も服用。妻は、介護負担が軽減され「安心できるようになった」と改善を喜んだ。

らの相談で、民生委員ら近隣からの連絡は七件にとどまり、第三者からの情報提供が課題となる。

市地域ケア推進課の石川隼主事は「病院や薬局にも情報提供を依頼するなど、地域のネットワークを広げ、認知症になっても住み慣れた地域で充実した暮らしを送ることができるようになりたい」と力を込める。

認知症の相談は、市認知症コールセンター＝052（919）6633＝か、各区のいきいき支援センター窓口へ。コールセンターは、月、水、木、金曜の午前十時～午後四時と、火曜の午後二～八時。相談無料。（本間貴子）

芸人から学者に 聖隷クリストファー大教授

中日新聞 2015年8月9日

◆古川さん 介護を研究

自立支援介護に力を入れる古川教授＝浜松市北区の聖隷クリストファー大で漫才コンビ「ガスパニック」時代の古川さん(右)

二十代にお笑い芸人として活動したが全く売れず、転じた老人ホーム職員を契機に、学者への道を切り開いた人がいる。聖隷クリストファー大（浜松市北区）社会福祉学部教授の古川和稔さん（47）。さまざまな経験を積み重ねた苦労人ならではの説得力のある講義で、大学や学生たちに高い評価を受けている。



茨城県出身で東洋大を中退後、二十歳で夢だった芸人の事務所に入った。過激パフォーマンス集団「電撃ネットワーク」の二軍として米国ツアーをしたり、「ガスパニック」というコンビ名で漫才をしたりした。ライブ会場で、ホンジャマカやバカルディ（現さまぁ〜ず）などの若手芸人と顔を合わせるうち、「自分の才能のなさが分かった」。二十七歳で芸人を退いた。

挫折感を味わいながら職を探し、東京都内の内装工事の小さな会社に雇われた。しばらくして経営者に「自分は社会保険に入っているのか」と確認した。「おまえのように何の社会経験もない者が社会保険に入れるはずがない。だが、生命保険には入っていて俺が受取人だ」と言われた。

古川さんは「ウソのような本当の話。芸人しか知らない自分はこの先、どうやって生きていこうかと途方に暮れた」という。

この会社は辞め、二十八歳のときに知人の紹介で老人ホームで介護の仕事を始めた。持ち前のサービス精神を發揮して懸命に働き、お年寄りに「あんたと知り合えてよかった」と言ってもらえた。やりがいのある仕事に出会えたと思った。

老人ホームで働きながら、夜学で夢中に学び、社会福祉士や理学療法士などの資格を取得。三十八歳で国際医療福祉大（栃木県）大学院博士課程（医療福祉学）を修了した。宇都宮短大准教授を経て昨年四月、聖隷クリストファー大教授になった。

お年寄りができる限り自分の力で動き、身体機能を回復させる自立支援介護の研究に力を入れる。「人間を相手にする点では、芸人と介護は同じ」と思う。「お年寄りをベッドや車いすでただ安静にさせておくのではなく、歩行訓練でまた歩けるようになったりして、諦めていた人生を取り戻してほしい。その時の笑顔を追い求めたい」と話す。（飯田時生）

